

# 人生ハンド仏句

第49号

H. 18. 4. 1  
(毎月1日発行)

## 足るを知る(少欲知足)

住職 谷川寛俊

元氣だった人が、突然病気になることがあります。会社にはやりかけている仕事がいっぱいあり、その他、プライベートでしたいこともある。それがこのようにベットのせられ、チューブをつけられている。一体いつ退院でき、社会復帰が出来るのだろうか。この様に思う時、何で「私だけがこのような目にあうのだろうか、何で不幸なんだらう」と思います。

しかしテレビを見ると、外国では飢えや病気で衰弱した体を粗末なベットに横たえ、ただ死を待つだけの人がいっぱいいるようです。戦争で体の一部が吹き飛んで、途方にくれている人々もいます。

それから見ると日本の病人は、何と恵まれている事でしょうか。

病気になった事は不幸ですが、このように考えるとむしろ自分は恵まれている、幸福なんだ、と言う気になります。これが仏教の教えの一つづある「足るを知る」と言う事であります。

經典には、こうあります「もろもろの苦悩から逃れるには、足るを知ると言う事を修めることである。足るを知るとは、心が豊かで安らかな境地の事である。足るを知る人は、路上に寝ても安らかである」

同じ事は、世の中全般の事にもいえると思います。

会社をリストラされた、自分の経営する会社が倒産した、好きな人にふられた、受験に失敗した等々、いっぱいあります。その時、その人は最悪の状態ですが、しかし世の中にはもつと不幸な目にあっている人が、たくさんいます。

例えば、火事で一家全員が焼け死んだ、などとあるのは気の毒でたまり

編集・発行  
玉蓮山 真成寺  
編集部  
TEL・FAX (0765)22-2268  
メールアドレス  
kokorochanthk@ybb.ne.jp  
ホームページアドレス  
<http://www.geocities.jp/sinjyoujitoyama108/>

ません。「上を見たらきりはない、下を見たら後がない」などといいましが、そうではなく、「下を見てもいっぱいいる」と思うべきです。そうすると、現状でもまだまだ悪くはない、と言う気になります。「足るを知る」ということについて「下を見る」ということも、一つの方法ではないでしょうか。



# 殺しても罪にはならぬ 「腹の虫」